

スライド作成のポイント

文責：（公社）全日本鍼灸学会学術部

全日本鍼灸学会学術部では、多くの方々が理解しやすいスライドの作成を心がけております。そのため、スライドの作成に関する注意事項等を手引きとしてまとめることとしました。スライドの作成にあたりましては、下記の点に留意して作成するようにお願い申し上げます。

なお、スライド発表が初めての先生方は「A. スライド発表をはじめて行う先生方へ」から、スライド発表を何度も行っている先生方は「B. スライド発表を行う全ての先生方へ」からお読み下さい。

A. スライド発表をはじめて行う先生方へ

スライドを作成するに前に、スライド発表が持つ長所と短所を発表者側と見る側から考えてみたいと思います。

1. スライド発表の長所

発表者側

- ・ 大勢の人の前で議論を行える
- ・ 画像など多くの情報を取り入れて、わかりやすく説明できる

見る側

- ・ 研究発表をわかりやすく説明してくれる
- ・ 要点がつかみやすく、研究内容をイメージしやすい

2. スライド発表の短所

発表者側

- ・ 研究の要点しか発表できない（ポスターに比べるとデータが限られている）
- ・ 議論を行う時間が短く、多くの人の意見が聞けない
- ・ 発表時間が限られているため、多くの人に見てもらえない

見る側

- ・ 発表時間にしか見ることが出来ない
- ・ 質問がしにくい
- ・ 発表がわかりにくいと最後まで理解できない

以上のように、スライド発表は発表者側から考えると「研究内容がわかりやすく説明ができ、大勢の前でアピールすることができる場」であるのに対し、見る側にとっては「研究内容をわりやすく・要点が理解しやすい場」ということになります。ただし、発表内容やスライドの示し方が悪いと内容そのものがわかりにくくなってしまい、何を言いたかったのが聞き手に伝わらなくなってしまいます。また、質問時間も研究のやり方に関する確認だけで終わってしまい、具体的な議論すら行えないこともあります。そのため、スライド作成に際しては、聞き手がわかりやすいと思う視点から作成しなければなりま

せん。

3. スライド作成に関する一般的な注意事項

スライドの枚数

スライドの枚数に基本的には制限はありません。ただし、一般的にスライド1枚を1分程度と考えるため、10分間の発表では10枚のスライドを用意するのが望ましいでしょう（タイトルは含まない）。スライドの枚数を考えて必要なスライドをしっかりと吟味し、無意味に説明が殆どないスライドを示すことはやめましょう。

スライドの文章

1枚のスライドに示せる文章量には制限がありませんが、見やすいという点から考えると文字のフォントは28フォント以上とし、6～7行程度に文章を納めることが望ましいとされています。文章量が多すぎると、逆に聞き手に内容が伝わりにくいので注意しましょう。

スライドの配色（重要）

視力障害の先生方もいらっしゃいますので、なるべく同系の色は多用するのは避けてください。特に、赤や緑は視力障害がある先生方には見にくいので避けましょう。また、スライドの背景には注意が必要です。黒や濃い青などの暗い色を背景に、白や黄色などの明るい色を文字として使用して下さい。

スライドの設定（重要）

スライドの作成は、パワーポイントなどで作成することが多いと思いますが、作成する前にスライドの条件を「35mm スライド」に設定する必要があります。特別な指示がない限り、「35mm スライド」で作成しましょう。設定方法は「フォルダー」→「ページ設定」→「スライドのサイズ設定」を選択し、「35mm スライド」を選んで下さい。

スライド作成の良い例

- ・24フォント
- ・28フォント
- ・32フォント
- ・36フォント
- ・40フォント

濃い青や黒を背景に、黄色や白の文字がよい。
フォントは24フォント以上を使用する。

スライド作成の悪い例

- ・24フォント
- ・28フォント
- ・32フォント
- ・36フォント
- ・40フォント

赤や緑は読みにくいとされています。
また、同系の色は読みにくいとされています。

4. スライドの構成

ポスターは、基本的に【タイトル】、【目的】、【方法】、【結果】、【考察】、【結語】の6つで構成されています。なお、症例報告では【方法】の代わりに【症例】、【現病歴】、【所見】に、または【結果】の代わりに【治療・経過】などに変えて作成することも可能です。

スライドを作成する前に、どの部分にどの程度枚数を使うかを考えた上で作成しましょう。

各項目に関する詳細なポイントを以下に示します。

タイトル・所属・氏名

時間の都合上、タイトルが省かれることがあります。タイトルと所属・氏名等は作成しておくべきです。なお、タイトルは、抄録提出時に登録したタイトルを使用し、勝手に変更することは出来ません。発表者には「○」またはアンダーラインをつけておくと、誰が演者であるのかわかりやすくなります。

目的

発表する内容が従来の研究の中でどのような意味を持ち、新たに明らかにする部分は何か？また研究の目的は何であるかを簡単に説明します。また、スライド枚数に余裕がある時には、【背景】などの項目をつくり、研究の背景等を詳しく説明すると今回の研究の意義が明確になりやすい場合があります。文字だけでなく、図などを利用してわかりやすいスライドを作成しましょう。

ただし、研究の目的が多岐にわたると内容が捉えにくいので、研究の目的は単純な方がわかりやすいでしょう。

方法

方法はその研究や治療がどのように行われたのか、またどのような根拠に基づいて効果を判定しているのかについて知る最も重要な場です。口頭発表では、この部分がうまく聞き手に理解してもらえない

と、その後の発表内容が伝わらない可能性があります。そのため、方法に関しては図などを利用してなるべくわかりやすくしましょう。

注) (社) 全日本鍼灸学会では、毎年多岐にわたる分野が研究・発表されています。そのため、専門分野の違う先生方が発表を見る機会が多く、専門用語などが多く含まれると理解できないことがあります。スライド作成に際し、専門用語などのわかりにくい表現は避けるようにし、やむを得ず専門用語を使用する際には、その用語を口頭でも構わないのでなるべく詳しく解説する必要があります。

結果

主要となる結果をグラフや表にまとめわかりやすく説明します。図や表を利用してわかりやすくスライドを作成します。文章を少なくし、図表を多くするとわかりやすくなります。統計などを行った際には、その結果も正確に記載して下さい。

なお、口頭発表では、具体的な数値や統計結果などを解説するとよりわかりやすくなります。また、評価項目が多岐に渡る場合は、評価ごとや経時的にまとめるなど、なるべくわかりやすいように工夫する必要があります。

なお、原則として抄録に記載した評価に関しては、何らかの形で結果に加えることが望ましいとされています。尚、「症例報告」では、【治療・経過】として置き換えることができます。

考察

目的（作業仮説）と結果を関連させながら事実を説明し、そこから考えられる事柄に関して理論的に考察します。考察は結果に基づいて行うものであり、結果から離れて推論を重ねることは望ましくありません。結果から考えられる事柄を、図表などを用いてわかりやすく考察しましょう。

なお、本研究（症例）から得られた問題点や課題等も記載するのもよいでしょう。

結語

本研究（症例）のポイントとなる事柄について、端的にまとめます。結語は結果のまとめではなく、この研究全てが総括できるものが良いでしょう。

注) 時間の都合上、結語がカットされることがありますが、結語には単なる結果のまとめと言うだけでなく、聞き手がその研究を再確認する意味も含まれています。研究を多くの人に理解していただくためには、結語を加えた方が良いでしょう。

B スライド発表を行う全ての先生方へ（必ず確認して頂きたい作成ポイント）

全日本鍼灸学会学術部では、他の分野の人たちが読んでも恥ずかしくない、わかりやすい口頭発表を行うために、スライドの作成に際して以下の点を注意していただくように心がけています。

そのため、スライド作成に際しては必ず以下の点に注意して作成して下さい。

スライド作成のポイント

1. スライド枚数に制限はありませんが、スライド1枚1分程度と換算し、10分間の発表では10枚程

度のスライド枚数としましょう（タイトルは含まない）。

2. スライド 1 枚に示せる文章量には制限がありませんが、見やすいという点から考えると文字のフォントは 28 フォント以上とし、6～7 行程度に文章を納めることが望ましいとされています。
3. 視力障害の先生方もいらっしゃいますので、なるべく同系の色は多用するのは避けてください。特に、赤や緑は視力障害がある先生方には見にくいので避けましょう。また、スライドの背景には注意が必要です。黒や濃い青などの暗い色を背景に、白や黄色などの明るい色を文字として使用してください。
4. スライドの設定条件を「35mm スライド」に設定する必要があります。特別な指示がない限り、「35mm スライド」で作成しましょう。
5. 内容は【目的】、【方法】、【結果】、【考察】、【結語】それぞれを作成し、その順序で掲示してください。ただし、症例報告に関しては、【方法】に関しては、【症例】、【現病歴】、【所見】等で、また【結果】に関しては【治療・経過】等で変更することが可能です。
6. 人や動物の基礎研究では、倫理的に配慮されていることを示して下さい（人や動物の基礎研究に関しては、ヘルシンキ宣言等の倫理的基準を満たしていることが国際的に求められています）。

*現在、(社)全日本鍼灸学会・学術部では、特別な指示がない限り動画など特別なスライド効果は、使用できません。動画などを使用する際は、大会事務局にご確認下さい。

スライド作成における自己チェックリスト

* スライドを作成する前に、必ず以下の項目をチェックしてから応募して下さい。

チェック	項目
	スライドは 10 枚前後にまとめる（タイトルは含まない）
	研究内容に倫理的な問題がない
	スライドが【目的】、【方法】、【結果】、【考察】、【結語】にわかれている
	35mm スライドの設定である
	結果が数値等で示せるものはなるべく具体的に示す (具体的な数値を示せない場合は統計結果でも構わない)
	視力障害者の先生方のことを配慮した配色である
	文字の大きさが見やすい大きさである
	誤字脱字を確認した
	動画などの特別な設定が行われていない（大会により異なります）

スライド発表に関する注意事項

スライド発表に際しては、以下の点に注意して下さい。

1. 指定された時間までに受付し、スライドを提出します（大会によっては、事前に提出を求めていますので、大会要項を参照して下さい）
2. 発表当日は指定された発表時間の 30 分前には口演会場にいるようにして下さい。

3. 発表は10分程度と決められています（大会により多少異なります）。時間内に発表内容が収まるように各自練習を行って下さい。

参考資料

・佐藤雅昭・和田洋巳・中村隆之：流れがわかる学会発表・論文作成. メディカルビュー社.

*この記載した内容は、あくまでもポスターを作るための参考資料です。間違いやお気づきの点などがございましたら、学術部 (gakujutu@jsam.jp) までご連絡下さい。